

低出力プラズマによる肌治療機器NeoGenSpaの使用経験

菅原 順^{※1} / 黄聖琥^{※2} / 小久保 健一^{※3} / 安村 和則^{※4} / 佐竹 利彦^{※5} / 前川 二郎^{※6}

Jun Sugawara, M.D., Ko Seiko, M.D., Kenichi Kokubo, M.D., Kazunori Yasumura, M.D.,
Toshihiko Satake, M.D., Jiro Maekawa, M.D.

横浜市立大学^{※1※6} / KO CLINIC^{※1※2} / 藤沢市民病院^{※3} / 横浜市立大学附属市民総合医療センター^{※4※5}

Yokohama City University / Ko Clinic / Fujisawa City Hospital / Yokohama City University Medical Center^{※4※5}

抄録

【はじめに】

大気圧で安定的にプラズマが生成できるようになり、近年では工業分野ならびに医療分野でプラズマ応用が進んでいる。プラズマとは気体を構成する分子が電離し、陽イオンと電子に分離して自由に運動している状態であり、高いエネルギーを要している。昨年より本機器を使用し、単体での治療効果ならびに複合治療での有効性について知見を得たので、実際の症例を供覧し報告する。

【対象・方法】

これまでくすみ、シミ、毛穴、小皺に悩む30症例以上に治療を行ってきた。施術前に約20分の保湿を行ったのちに施術を行った。評価には、患者自身の主観的評価ならびに客観的評価として画像解析診断装置を用いた評価を行った。

【結果】

照射に伴う疼痛はほとんどなく、くすみに対してはほとんどの症例で著明に改善を認めた。表在性の色素性病変に対しても効果を認めたが、Q-switchレーザーやCO₂レーザーを併用することでより高い治療効果を出すことができた。眼瞼周囲の小皺や毛穴に対しても比較的良好な結果を得た。合併症に関しては低出力では施術同日に軽度の発赤を認めるのみであったが、出力を上げると脱落までに10日間程度を要す痂皮を認める症例があった。色素沈着は1例も認めなかった。

【考察】

NeoGenSpaは窒素ガスに高周波を用いてプラズマ状態を生成し、プラズマによる生体反応ならびに生成に伴う熱による効果が考えられている。クロモファーがないがゆえに上眼瞼や多少日焼けをしている症例であっても安全に施術を行え、疼痛が少ない点は大きな利点であると思われる。またQ-switchレーザーを併用することで、全顔のrejuvenation効果をさらに引き上げることができた。今後は本邦でのより安全な施術方法、ならびに長期的な効果、問題点を検討していく。

memo